

あの人この人の

ギョーカイにぼれ話

? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !! ? !!

表紙のイラスト



豊丸産業
「CRダルマゲドン358M」

編集室

編集部の日さんは夏の節電に備え、蛍光灯の器具に付けられる直管型LEDを試しに：本買ったそうです。耐久年数が4万時間もあり、1日何時間使うか仮定して計算すると、日さんが80歳になってもまだ使えます。

LEDははるかに長生きで、それを、年齢的にもキャリアも大先輩のTさんに話すと、「それじゃあ、俺には必要ないってわけだね…」

「今(金屏風の後から)言われましたが、(挨拶が)長すぎるぞという話でございますが(笑)、これも受章

■皆さん方と共に苦労した思いが
「今(金屏風の後から)言われましたが、(挨拶が)長すぎるぞという話でございますが(笑)、これも受章

■本来の役回りからしますと「本来の役回りからしますと、さつさと乾杯の音頭を取って、この場を降りろという視線も、すべて私にはよく見えます…。しかし、そうはしません!(会場爆笑)笑は祝辞をちよつと言つても良いというので、お話をさせていただきます」(原田理事長の藍綬褒章受章祝賀会で乾杯音頭に立った大城正準全日遊連副理事長。何人もの祝辞や挨拶が続いて、自分が11人目にもなることを意識したジョーク)

RSN機関紙が被災地からの電話相談を特集

パチンコ依存問題電話相談の「リカバリーサポート」ネットワーク(RSN)が発行している月刊機関紙「さくら通信」58号(2月25日発行)に、珍しく震災被災地からの電話相談の内容

が掲載された。電話相談3件を扱った特集記事で、タイトルは「電話相談員が感じた電話の向こうにある震災〜東日本大震災は、RSNの電話相談にどのような影響を及ぼしたのか?」。

Aさん夫妻は休日、一緒に開店前から並んで遊技していたが、震災で近所のホールが被災して営業できなくなり、開店前から並ぶために朝5時頃家を出て遠くのホールに通うようになった。「妻はこのよつな生活に疑問を感じ始めている」というのが1件目。Bさんは趣味の範囲で問題なく遊技していたが、震災の影響で仕事が激減。高齢の母の容態も悪化して、ストレスからホール通いが増加した結果、銀行で30万円借入金。Cさんの家は津波で倒壊したが昨年9月頃再建し、近所のホールも再開。Cさんの夫は以前からパチンコのために借金を繰り返して、最近では家にある現金や通帳を持ち出してしまっ、Cさんは「義援金だけは使わせないように隠しているが、見つからないか心配している」。

相談員もいつもとは勝手が違つて「日常生活の被災影響をどこまで踏み込んで聞いてよいか判断に迷つた」とか「通常の相談では必ず確認する家族構成も、身内の方を失つた方に配慮して、相談員から積極的に聞き出すことは控えている」など、震災特有の対応の難しさを印象付ける記事だった。

味の問題なく遊技し



RSNの機関紙「さくら通信」58号

遊技ジャーナル 4月号

2012年(平成24年) 3月28日発行(通巻804号)

1964年(昭和39年)4月1日第三種郵便物認可(毎月1回・28日発行)

●発行所 (有)遊技ジャーナル社

〒110-0015 東京都台東区東上野1-2-13 カーニープレイス新御徒町702

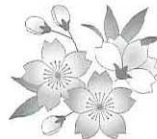
☎03(3833)4245(代) FAX.03(3833)4638

E-mail journal2@nifty.com

●発行人・齋藤祭 編集人・久保田光博

定価 2,500円 1ヶ月25,000円(送料・消費税込み)

振替口座 00140-2-62098 印刷所 志澤印刷(株) ※禁・無断転載



■こんな長い話でいいんでしょか
「生まれは盛岡で、私が2〜3歳のころ父親が大船渡でパチンコ店経営を始めました。その後、神奈川県の平塚でパチンコ店を。気仙沼の店は私が28歳の時からです。こんな長い話でいいんでしょうか(パチンコ店経営の簡単な経歴を質問した記者に対して高山光史・気仙沼組合長)